



公益社団法人 埼玉県看護協会

さいたま

Nursing



岩槻人形博物館 犬篋（提供：（一社）埼玉県物産観光協会）さいたま支部

No. **138** 2024.1.22

特集 ともに、つくる、「看護」

職種間のタスク・シフト/シェアの推進
医療ソーシャルワーカー（地域連携室）

6～7

- ❖ 新年のごあいさつ 2
- ❖ 第17回 医療安全大会 / 第31回 埼玉看護研究学会 3
- ❖ 支部だより 4
- ❖ 認定看護師派遣事業のご紹介 / お知らせ 8

会員数 **24,866** 名 (2023.11.30 現在)

保健師

393名

助産師

962名

看護師

23,015名

准看護師

496名

埼玉県看護協会ホームページ
<https://www.nurse-saitama.jp>



新年のごあいさつ

公益社団法人埼玉県看護協会 会長 澤登 智子



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年は甲辰(きのえたつ)の年であり、新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になるといった、縁起の良い年になるといわれております。コロナ禍を超えた令和6年は、何かにチャレンジするにはよい年となりそうです。

さて、私事になりますが、会長に着任してから半年が経過いたしました。この間は大変慌しく駆け抜けてきたという印象がございます。新たな年に入りましたので、心機一転、令和5年度事業を振り返るとともに新年度事業の推進体制を検討してまいりたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の流行は収まる傾向にあり、これからはコロナ禍でのさまざまな経験を経て、従来の延長ではなく、生活様式や価値観などが変化する状況になるものと推測されます。

令和6年は、看護職にとって身近である医療・保健・福祉に関する政策が大きく転換してゆく年でもあります。

4月から「医師の時間外労働の上限規制」に伴い、医師並びに医療従事者の働き方改革、医療DXの推進と、看護を取り巻く環境はますます変化していきます。日本看護協会会長は、厚生労働大臣と日本医師会・歯科医師会・薬剤師会長と各病院協会会長と共に名を連ね、新興感染症対応、医療DXの推進を柱とする「ポストコロナ医療体制充実宣言」を令和5年11月6日に発出し、宣言文の最後に「看護業務について、医療DXの推進等により、効率化を図る」と記しています。

さらには、第8次地域保健医療計画、第9期介護保険事業計画、第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画が同時にスタートし、6月には診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬のトリプル改定が実施されます。本会では、3月24日(日)に「2024年度診療報酬改定セミナー」の開催を予定しております。ホームページに詳細をご案内しておりますので、是非ご参加いただきたいと思います。

さらに、令和6年4月の改正医療法等において、災害と感染症への対応を一体的に行う災害支援ナースが位置付けられます。本会においても、日本看護協会からの委託を受けて令和5年度の内から新制度に合わせた育成研修を開始しております。

今年度は、日本看護協会主催「日本看護サミット2023」が2月14日(水)に東京国際フォーラム(有楽町)で開催されます。テーマは「地域社会を支える看護職への生涯学習支援」です。国民のニーズに応える看護の実践と、あるべき将来像の実現のための政策課題と解決に向けた戦略の議論・提言などが行われますので、多くの埼玉県の会員の皆様にご参加いただけますと幸いに存じます。

時代の要請に応え、看護の役割発揮の場は益々広がるため、より質の高い看護提供体制の構築が課題となります。私ども埼玉県看護協会は、県内の看護職の皆様と共に看護の質の向上を図り、県民の健康な生活の実現に貢献してまいります。本年もご協力・ご支援いただけますようお願い申し上げます。

第17回 医療安全大会

テーマ 「チームでまもる 患者第一に考えた医療安全」

開催日 令和5年11月11日(土) 開催形式 オンライン 参加者 650名

第17回埼玉県医療安全大会が、多くのご参加者のもと無事終了しましたことを心よりお礼申し上げます。今回の大会は、埼玉県の医療安全を推進するお二人の先生にご講演をいただきました。第1部は「ヒューマンエラー ～医療事故に繋げないために～」、さいたま市民医療センター 院長補佐 渡邊善正先生の講演でした。エラーのメカニズムとチームで安全を担保するための対応方法について、わかりやすくお話しいただきました。第2部は「医療現場でのトラブルや医療紛争への対応～倫理的・法的視点を踏まえてのコンフリクトマネジメント～」、上尾中央総合病院 情報管理特任副院長 長谷川剛先生の講演でした。アンガーマネジメント、コンフリクトマネジメントの基本的な考え方や対応について、具体的にお話しいただきました。お二人の先生が共通してお話されたことは、患者の安全を守るには一人で抱えるのではなく、多職種がそれぞれの役割を果たし、チームとして取り組むことが大事ということでした。ご参加の皆様からは、「わかりやすい」「今後の医療安全に役立てられる」など、多くの反響をいただきました。



▲医療安全推進委員

医療安全推進委員 宇居 登美子

第31回 埼玉看護研究学会

テーマ 「しなやかに、たおやかに 新時代の看護」

口演発表 20演題
誌上発表 12演題

開催日 令和5年12月2日(土) 開催形式 ハイブリッド 参加者 366名

研究発表

八木ホールで20演題の研究が口演発表され、それぞれの発表に対して、会場・WEB双方から多くの質問があり、活発な討議がおこなわれました。その中で、みのり訪問看護ステーション「LAD発生状況に関連する要因－排泄自立度、家族協力体制、清潔ケア頻度に焦点を当てて－」に奨励賞が贈られました。この研究は、在宅でのLAD（失禁関連皮膚炎）予防支援についての示唆が得られた発表でした。研究発表を聴くことで、今後の看護について考える場としての学会の大切さを実感しました。



特別講演

特別講演は、埼玉県立大学の秋山美紀先生に「看護職がこころを保ちながらケアするためのセルフ・コンパッション」についてご講演をいただきました。コンパッションを自分に向けると、疲弊することなく高いレジリエンス力を持つことができるという内容でした。多忙を極める看護職は、日頃からゆっくりと呼吸をする、お茶の香りを味わう、お湯にゆったり浸るなど、ちょっとしたことで自分を癒す方法を身につけることが大切です。ストレスと上手に付き合うことで自分のいい状態（well-being）を保つことが、看護を提供するうえで必要であることを改めて学びました。



▲奨励賞

ワンポイント レクチャー

人間総合科学大学の渡邊成先生より「研究成果を100%伝えるためのプレゼンテーション」をテーマにご講演いただきました。研究発表の準備は、原稿を見なくても語れるくらい研究内容を自分のものにすることが重要だとわかりました。また、予演会は、画像が実際の投影で見やすいか、発表時間に過不足はないか、相手にわかりやすい口調で話しているかを確認する場であると再認識しました。今後のより良い看護研究発表に活かしていきたいです。

広報委員会

支部だより

支部が再編され10ヶ月が過ぎました。5月からCOVID-19が5類感染症に位置付けられたこともあり、さまざまな支部活動が始まりました。137号でご紹介した、北部・秩父支部、西部支部の活動に加えて、令和5年度の各支部の活動について会員の皆様にお知らせします。



さいたま支部

支部長

渡辺 まゆみ
〈さいたま赤十字病院〉

今年度、さいたま支部は新たに岩槻区が加わりスタートしました。COVID-19の5類感染症移行を機に対面でのイベントを再開し、慣れない中でも役員が力を合わせて頑張っております。5月には「看護の日イベント」として与野イオンにて血管年齢測定、骨密度測定等を実施し200名を超す地域の皆様にご参加いただきました。10月には「心不全の予防と上手な付き合い方」をテーマに地域看護セミナーを開催しました。また11月には4年振りに参集での看護研究発表会を実施いたしました。現在は第1号となる支部便りの発刊に向け準備を進めております。



川越比企支部

支部長

山崎 みつ江
〈小川赤十字病院〉

今年度は、コロナ禍以前の支部活動に戻せるよう、役員全員で奮闘しています。しかし、コロナ禍以前の活動を知っている役員が誰もいないという状況です。それでも、今年度は2つの活動にチャレンジをしました。1つ目は南西部支部との合同看護研究発表会の開催です。2つ目はこれまで定例だったバス旅行に替え、フラワーアレンジメントを楽しむ交流会を開催しました。これからも会員の皆様に興味を持って参加していただけるような支部活動にできるよう、新しい視点をもって取り組んでいきます。



南部支部

支部長

林 幸恵
〈戸田中央総合病院〉



皆様、こんにちは。3年越えという長きにわたる感染症との戦いもCOVID-19の感染症5類移行により医療、看護、介護、在宅等でも目に見える変化を感じておられることと存じます。当支部も、計画した事業を予定どおり行う事ができております。10月は福利厚生旅行で茨城県へ、11月には講演会を開催する事ができました。数年ぶりの旅行とあって、とても楽しみに参加された会員の方もいて、笑顔が絶えない一日となりました。講演会ではストレッチ運動なども交えリラックスした時間を過ごすことが出来ました。役員一同、会員の皆様にとって有意義となる事業を企画・運営してまいりたいと思います。どうぞ皆様、ぜひご参加ください。

南西部支部



支部長

太田 真由美

〈新座志木中央総合病院〉



緩やかにコロナ禍以前の生活に戻りつつある中、南西部支部も感染対策に十分配慮し対面での活動へと挑戦しております。10月には、「コロナのあれこれ語りましょう!」というテーマのもと交流会を開催しました。看護師の使命を全うするというおおいを支えに、同地域で奮闘した仲間とじっくり語りあい、有意義な時間となりました。11月には地域住民の健康維持増進に向けて市民講座を開催いたしました。川越・比企支部と合同で看護研究発表会、研修を実施しました。新体制となり第3支部の頃と比べると会員数は減りましたが、地域で協力するという意識は高くなったと感じております。



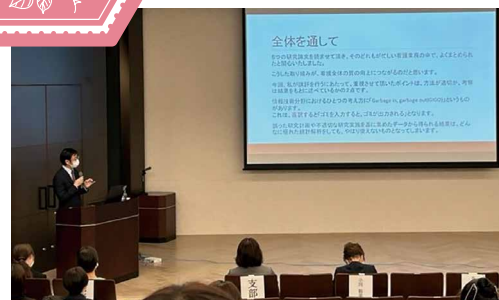
県央支部



支部長

横山 幸子

〈上尾中央第二病院〉



令和5年10月28日(土)県央支部になってから初めての看護研究発表会を上尾中央総合病院中村記念講堂にてハイブリッド形式で開催しました。久しぶりの良い緊張感の中、活発に質疑応答が交わされ、それぞれの演題に対して関心の高さが伺えました。また、講師として順天堂大学の北川明先生をお迎えし、細部までご教授いただき、「皆さんの研究一つ一つが、看護の向上に役立っていると思います。」と励ましのお言葉をいただきました。多くの方に支えられ研究発表会を開催でき、有意義な一日となりました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

利根支部



支部長

加藤 加澄

〈JMA東埼玉総合病院〉



コロナ禍の制限された生活からもとの生活に近づけるようにと支部活動の幅も広げていく計画を立てました。地域住民への健康普及啓発として、「看護・健康フェア」を9月9日(土)イトーヨーカドー久喜店にて開催しました。前日の台風のため開始時の来場者は少なめでしたが、最終的に33名の方にご参加いただけました。管理栄養士2名の協力を得ることができ、健康相談や栄養相談に来場者の関心が集まりました。久しぶりの外部での活動でしたが、「何かお役に立てれば精神」で楽しく活動できました。



東部支部



支部長

加藤 好江

〈みさと健和病院〉



コロナ禍も収まり、「きっと何かができる」という願いをこめて令和5年度支部活動を計画しました。1つが「看護の日」の取り組みで、配布資料を準備して健康チェックや健康相談などの活動を行いました。改めて看護職ができる事を地域で実践した時間となりました。もう1つは会員親睦会のバス旅行でした。直前まで開催できるか不安でしたが、無事に筑波宇宙センター見学と美味しい食事をいただき、満面の笑みで写真も撮り、楽しい時間を会員の皆さまと過ごす事ができました。来年度も「看護協会に入って良かった」と思われる企画を検討したいと思います。

職種間のタスク・シフト/シェア

医療ソーシャルワーカー（地域連携室）

Medical Social Worker

医療法人積仁会 旭ヶ丘病院・介護医療院あさひヶ丘

●病床数：142床（一般病棟・地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟・療養病棟）
介護医療院 100床 ●看護職員 180名 ●社会福祉士 4名

当法人は、地域の大学病院等急性期からのスムーズな受入をし、在宅につなげる役割のケアミックス病院である。急性期病床から、医療依存度の高い方の受入ができる介護医療院までの機能があり、療養病棟では在宅復帰機能強化加算を取得している。医療ソーシャルワーカーとタスク・シフト/シェアを推進したことで、地域貢献度のアップにつながった。



医療
ソーシャルワーカー
(MSW)

金子 友里さん



ある日の仕事

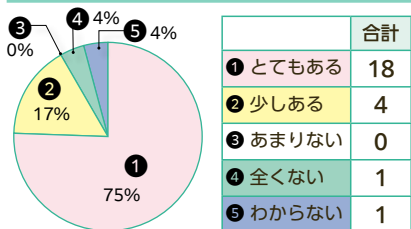
※看護師と協働している業務

8:30	業務開始 各病棟申し送り参加 担当患者訪床 臨時当番は電話相談対応	12:00	お昼休憩
9:00	部署ミーティング	13:00	入院中の患者・家族とインテーク（初回）面接 面接前に病棟看護師リーダーに体調面の変化を確認、必要に応じて看護師が直接家族に説明
9:30	入退院支援看護課長に空床状況を確認 連携施設に当院の空床状況をメールで報告 地域の連携施設より当日の外来受診相談 入院希望のため、入退院支援看護師に相談した上で外来受診の案内 外来医師・看護師より、認知症・独居患者のMSW介入依頼あり。患者と面談し通院や生活面の課題を整理して地域包括支援センターに連絡	14:00	病棟カンファレンス参加 医師、看護師、リハビリスタッフと課題について情報共有
11:00	介護医療院あさひヶ丘との連携会議に入退院支援看護課長と参加 入退所の情報共有、地域の社会資源の情報を共有	15:00	地域連携機関の訪問対応
		16:00	医事課より、「外来患者から介護保険申請について相談を受けた」とMSWに連絡あり。制度やサービス紹介し、訪問看護の希望があり。主治医に確認の上あさひヶ丘訪問看護ステーション看護師よりサービスについて説明
		17:00	業務終了

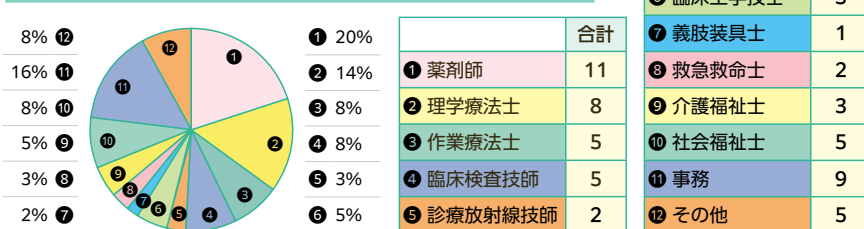
アンケートでのご意見を紹介

広報誌135～137号のタスク・シフト/シェアの推進に関するアンケート結果とご意見の一部をご紹介します。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

Q1. タスク・シフト/シェアの推進について興味はありますか。



Q2. 職場で協働を進めている、または進めたいと思う職種はありますか。（複数選択可）



	合計
⑥ 臨床工学技士	3
⑦ 義肢装具士	1
⑧ 救急救命士	2
⑨ 介護福祉士	3
⑩ 社会福祉士	5
⑪ 事務	9
⑫ その他	5

の推進

タスク・シフト/シェア（業務の移管/共同）は「従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること又は他職種と共同化すること」という意味で使われます。タスク・シフト/シェアの推進は、「患者にとっての利益」を目標に、看護師がその専門性をさらに発揮し、より質の高い医療を提供するためのものです。最終回は、アンケートでもご要望の多かった、地域連携室での医療ソーシャルワーカーや医事課とタスク・シフト/シェアを推進した事例をご紹介します。

患者支援センター発足から現状までの経緯

平成28年10月入退院支援室が発足し、入退院支援業務を入退院支援看護師とMSWが協働して行うようになりました。以前は、診療情報提供書が届くとMSWが医師に個別に相談し、医師が入院可否の判断を行い、入院前に医師面談を実施していました。現在は、近隣施設に「透析患者以外は受入可能」とお知らせをし、診療情報提供書が届くと入退院支援看護師が翌日までに受入の返答をする、という内部システムを構築しました。入退院病床コントロールを行う看護師が入院相談を受けることで、迅速な対応・調整ができます。入院相談から入院までの期間は、以前は1週間以上だったものが現在は翌日から受け入れ可能になり、入院相談件数も増えました。

このようなシステムが構築されたことで、MSWは社会的心理的課題のある患者への支援に手厚い対応ができるようになり、法人理念の「地域貢献」に大きくつながったと感じます。昨年11月に新棟が建ち、1階の患者支援センターには入退院支援看護師とMSWが配置され、医事課と同じフロアで働く環境となり3部署が相談・連携しながら業務を行っています。



インタビュー

Q. 良かったことを教えてください

入退院支援看護師・医事課・MSWが同じフロアで業務を行うことで、患者や家族、地域の連携機関からの相談に対して迅速かつ丁寧な対応ができるようになりました。例えば、医事課職員が患者の対応中に相談内容で対応に困った際、その場でMSWの相談支援につなげています。また、入退院支援看護師が入院相談を受ける際、コストなどに関しては医事課、社会面についてはMSWが対応し、迅速にお返事ができています。

Q. 今後の展望をお聞かせください

年々身寄りのない方の外来受診や入院が増加しており、社会面で課題のある方も多いです。外来通院されている段階から支援が開始できると、患者も今後向き合わなければいけない経済面や家族、ACP等の課題に対し準備することができそうです。今後も入退院支援看護師、医事課、外来看護師、病棟看護師等と協働し、不安が軽減され、地域で安心して生活を送る方が増えるように日々研鑽しながら支援していきます。

Q3. 職種間の協働でのエピソードを教えてください。（一部文章を編集しています）

- 患者中心に、互いが主体的に動けるようにしたいと思って取り組んでいるところだ。
- なかなか話す時間がとれず、協働できていない。
- 薬剤を調整する際に薬剤師のサポートがあり助かる。
- 協働しているが、他職種の業務改善のしわ寄せが看護師に全てきてしまっている。
- 障害者福祉施設に勤務しているが、医療職と福祉職間ではまだまだ互いの認識の差があり、利用者の安全な生活を支援するために日々協力が欠かせない。

- 理学療法士と患者の訓練の様子について情報を共有し、昼食前の車イス移乗を理学療法士がおこなうなどの協働をしている。
- 強迫症の事例で、医師・PSW（精神保健福祉士）・CP（臨床心理士）・教諭と情報共有し、到達目標を設定することで、職種の強みを生かした具体的なアプローチができた。
- DVの事例で、聞き取りや情報提供など、看護師とソーシャルワーカーが調整・協力し、患者が安心して過ごせるように調整した。大変だが、看護師ってやりがいのある仕事だと思う。
- 在宅酸素導入患者の事例で、医師・リハビリ・地域連携看護師等と意見交換し、家族・患者を含めて在宅退院へ支援した。患者・家族の意見を汲みながら、安全・安楽、QOLを維持できるよう関わるのが大変だった。

1月1日に発生した令和6年能登半島地震において、
亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。
また被災された方々にお見舞い申し上げます。

認定看護師派遣事業のご紹介

県内医療機関、訪問看護ステーションや介護施設へそれぞれ認定看護師を派遣し、
専門的な知識、技術の普及を図る目的の事業を受託しています。
令和4年度に研修を受けた3施設の感想をご紹介します。

分野	救急看護	藤井 美香	看護師（所属：TMGあさか医療センター）
派遣先	上福岡総合病院（ふじみ野市）	受講者	看護師
感想	災害への日頃の備えと有事の際にすぐ行動ができるような訓練を行い、身に付けておくことが大切と学んだ。参加者からも自身や施設の災害への準備や看護を知ることができた多くの意見があり有意義な研修だった。		
分野	緩和ケア	寺側 優里	看護師（所属：上尾中央第二病院）
派遣先	特別養護老人ホームクィーンズビル桶川（桶川市）	受講者	看護職・介護職・栄養士
感想	疾病と死への軌跡・よくみられる身体の変化等の内容の講義を受けた。重い話だったがご家族への配慮も凄く大切だと再認識させられとても良かった。		
分野	訪問看護	中村 由美子	看護師（所属：白岡中央総合病院）
派遣先	特別養護老人ホーム万葉の郷（加須市）	受講者	看護職・介護職・相談員
感想	看取り開始にあたり、看取り期の身体的・精神的変化やそれに対するケアの仕方を受講した。実体験を交えての講義で感銘を受けた。家族と入居者に寄り添った看取りをしていきたいとの意見が多かった。		

組織強化委員会からのお知らせ

組織強化委員会は看護協会会員の入会促進、会員のネットワークを広めることを活動目的としています。職能団体である看護協会は、看護職の質向上、安全・安心な働く環境を整える、地域の方々のニーズに応える看護の展開を使命として活動しています。1人でも多くの看護職に会員となっただき、組織力を高めていきたいと考えています。会員の皆さまにおかれましても、看護協会に入会する必要性やメリットの周知にご協力いただけますようお願いいたします。

埼玉県看護協会の入会状況 **24,866人**（令和5年11月30日現在）

→ **目標 25,000人**

会員の皆さまのための看護協会です。未入会の方にお声がけをお願いします！

3.11メモリアル企画

テーマ **支え合う力 災害支援**

「秋田県大雨災害 災害支援の実際」
「今も支援は続く」

開催日：令和6年3月11日（月） 13：00～16：30

オンライン開催（申込受付中）

※詳細は埼玉県看護協会HPをご覧ください。

「看護業務の効率化先進事例アワード2023」
特別賞＜AI・ICT等技術の活用＞受賞

自治医科大学附属
さいたま医療センター

業務量調査から見えた業務負担とその改善策
— チーム活動を円滑にする通信機器の活用 —

編集後記

広報委員会

今月号は、医療安全大会や埼玉看護研究学会の紹介を掲載しました。各施設が医療・看護の質向上につながる研究に取り組み、その成果を感じることができました。また、ワンポイントレクチャーはとてもわかりやすい内容で、今後の看護研究に活かせる学習の機会となりました。特集では、医療ソーシャルワーカーと看護師のタスク・シフト/シェアについての紹介をしました。地域貢献のために多職種が連携し、医師を含めた組織全体の協力体制の構築ができた事例紹介でした。各施設が自施設に合った連携構築を考える際の参考になったのではないのでしょうか。

広報誌「さいたま」138号はいかがでしたか？

アンケートで皆様の声を聞かせてください。奮ってご参加ください。

◆応募締切：令和6年2月29日（木）まで

▼アンケート内容

- 138号で興味をひかれた記事はありましたか。（複数選択可）※必須項目
- 今後、取り上げてほしい記事やテーマはありますか。
- 表紙の案を募集します。
推薦する風景・風景以外の案等、応募してください。
- 138号へのご意見ご感想をお聞かせください。



回答は
こちら



この印刷物は環境にやさしい「植物油インク」を使用しています。



P-B10151